

第1回県立大学あり方懇談会議事概要

平成15年2月20日（木）13:30～15:15

岡山県3階会議室

1 出席者（13名、五十音順）

（委員）

池田武彦、海本博允、大西珠枝、金重恵美子、小池将文、小嶋光信、小橋政彦、
佐古信五、高谷茂男、武田結幸、鳥越良光、西脇宣子、古松紀子

（欠席：妻鹿ふみ子）

（県側）

石井知事、西藤総務部長、古矢総務部次長 ほか

2 知事挨拶

3 自己紹介

各委員及び事務局職員が自己紹介

4 議事概要

（1）会長の選任について

鳥越委員が互選された。

（2）副会長の指名について

鳥越会長が副会長に小嶋委員を指名した。

（3）会議の公開について

事務局から会議は原則として公開するとの案が提出され、承認された。

（4）懇談会の進め方について

事務局から資料1により説明があり、了承された。

（5）県立大学の概要について

事務局から資料1及び2により説明。

（6）質疑及び意見

（委員）（質問）

県立大学の学部学科の設置理念はどうか。

〔事務局〕高齢者社会に向けての保健福祉部、情報化社会に向けての情報工学部、
伝統文化の承継に向けたデザイン学部。さらには、介護福祉士や保育士
など有為な人材養成を県が行う必要があるので短期大学部を残している。

教授の採用方法はどうか

〔事務局〕公募としている。

オペレーション（大学運営組織）はどうか。

〔事務局〕学部には教授会、大学全体に評議会である。外部識者による参与会がある。

（委員）（質問）

学部の学生の県内生の割合はどうか。

事務職員と教員の平均在籍期間はどのくらいか。

〔事務局〕県内生の割合は約4割。

事務職員の在籍は3年程度。教員は資料がないので次回報告する。

(委員) (質問)

一連の問題以降の取組状況はどうか。

〔事務局〕大学評価・学位授与機構の準会員にはなっているが、評価は受けていない。大学独自に評価を受けるシステムを研究している。

(委員) (質問)

研究費の配分についての学長の権限はどうなっているか。

〔事務局〕研究費全体から1割程度を学長査定分として、グループ研究を行う研究テーマへ配分している。→委員「国立と同じですね。」

(委員) (意見)

議会としても県立大学のあり方について重要視をしている。不祥事の問題を踏まえ、切り込んだ報告としてほしい。

大学自治の関係で、設置者の指導力が発揮できない状況がある。

学長の個性、意志、未来像などが反映される大学でなければならない。

難しいかもしれないが、職員の身分についてまで切り込んだ報告になればありがたいと思う。

教員の資質の再評価なども必要。

(委員) (意見)

毅然とした学校の方針が学生に伝わるような運営システムと教育の内容が必要。

(会長) (意見)

大学の中では意思決定と権限と責任が明確にされていない部分がある。教育・研究と経営の分離ということもテーマにしていかなければならない。

(会長) (質問)

教員の出勤形態はどうか。

〔事務局〕一連の問題以降、服務規程を整備し、勤務時間の割り振りができるようにし、教員の理解を求め、出勤簿への押印、退庁時の届け出をお願いしている。

(委員) (意見)

産業界との連携のやり方や、特許の数など具体的に目に見えるデータを揃えて提示すればわかりやすくなり、議論しやすくなると思う。

(委員) (質問)

県としては、今後もいかなることがあっても県立大学を存続させるというスタンスなのか。それとも存廃の問題まで議論するのか聞いておきたい。

〔事務局〕廃止するつもりはない。必要な学部学科であるとか社会貢献の在り方などの観点で、充実すべきは充実する、民間にお任せできるものは任せるというスタンスで議論いただきたい。

(委員) (質問)

少子化による高校の卒業生の減少に見合った規模についても考慮すればいいのか。

〔事務局〕考慮いただきたい。全国的に議論されている短大のあり方も含めて検討

していただきたい。

(委員) (意見)

あまり予断をおかないで、あるべき姿を議論していきたい。

(委員) (要望)

独立行政法人について資料を出してほしい。

〔事務局〕資料はその議題の際提出する。必ず独立行政法人化ということではなく、法人化が望ましいか否かについて議論いただきたい。

(委員) (質問)

もう一度勉強したいという人たちを大学がどう受け入れるかは大きな問題だと思う。生涯学習への取組と社会人の入学数はどうか

〔事務局〕社会人は学部にはいないが、大学院には職場を辞めて入っている方がいる。現在、生涯学習への取組として公開講座などを開催している。

(委員) (質問)

高大連携への取組状況はどうか。

〔事務局〕双方向での遠隔講義は行っていないが、井原市の精研高校とインターネットによる発信は行った。

(委員) (意見)

大学新卒者がすぐにドロップアウトする。即戦力になる人材の供給について議論してもらいたい。

(委員) (要望)

専修学校への大卒者の入学生が毎年増えている。卒業生の進路についてのデータがほしい。

(委員) (意見)

どこにでもある学部ではなく、特色のあるものにしてほしい。学部の見直しが必要である。エンターテイメントなども世の中の半分くらいのニーズがあります。

(会長) (意見)

希少価値のある、公だからこそできる分野を探して模索することが重要である。

5 閉会

(会長)

本日は貴重な意見をいただいた。たくさんの宿題もいただいたので、事務局も要望に応えるだけの資料を作成してください。次回から本格的な意見交換をさせていただきます。